

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 4 回 松阪市教育ビジョン検討委員会
2. 開 催 日 時	令和 7 年 7 月 24 日(木)午後 3 時 00 分～午後 5 時 20 分
3. 開 催 場 所	松阪市教育委員会事務局 2 階 教育委員会室
4. 出席者氏名	(委 員)◎谷口委員、○奥村委員、西村委員、松岡委員、鈴木(寛)委員、福田委員、中川委員、鈴木(久)委員、服部委員、西尾委員(◎委員長 ○副委員長) (事務局)若山事務局長、熊野事務局次長、西浦参事兼教育総務課長、三田学校教育課長、中西子ども支援研究センター所長、加藤こども未来課長、小泉生涯学習課長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 教育総務課 電 話 0598-53-4381 FAX 0598-25-0133 e-mail syom.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

- (1) 教育施策シートについて(グローバル教育の推進、特別支援教育の推進、環境教育の推進、体力の向上、教職員が働きやすい環境づくり、教職員研修の充実、学校施設の充実計 7 施策)
- (2) 本日の検討内容
テーマ:子どもが健やかに育ち、自分らしく学べる教育環境の実現に向けて
(①幼児教育の推進、②子育て支援の推進、⑤教育の情報化の推進、⑧道徳教育の推進、⑨郷土教育の推進、⑩人権教育の推進、⑰健康教育の推進、⑳読書活動の推進)

議事録

別紙

【第4回 松阪市教育ビジョン検討委員会 会議メモ】

1. 日 時 7月24日(木)午後3時00分～午後5時20分

2. 場 所 松阪市教育委員会事務局 2階 教育委員会室

3. 出席者

委員:谷口委員、奥村委員、西村委員、松岡委員、鈴木(寛)委員、福田委員、中川委員、鈴木(久)委員、服部委員、西尾委員

事務局:若山事務局長、熊野事務局次長、西浦参事兼教育総務課長、三田学校教育課長、中西子ども支援研究センター所長、加藤こども未来課長、小泉生涯学習課長

4.内 容

1.あいさつ

2.協議事項

(1) 教育施策シートについて(グローバル教育の推進、特別支援教育の推進、環境教育の推進、体力の向上、教職員が働きやすい環境づくり、教職員研修の充実、学校施設の充実計7施策)

(2) 本日の検討内容

テーマ:子どもが健やかに育ち、自分らしく学べる教育環境の実現に向けて
(①幼児教育の推進、②子育て支援の推進、⑤教育の情報化の推進、⑧道德教育の推進、⑨郷土教育の推進、⑩人権教育の推進、⑰健康教育の推進、⑳読書活動の推進)

内容は以下のとおり

開会 司会

(1) 教育施策シートについて
(事務局から説明)

～4 グローバル教育について～

委員

全体を通して「自律」「自立」「主体的」「自主的」という細かくいうと意味は違うが、似通った言葉を数多く使っています。今後の方向性の所で「自律的に学び続ける力」と記載がありますが、「自律」という言葉をあえて使っているのは意味があるからだと思います。教育ビジョンを手にとった方が、言葉の意味をいちいち調べなくてもわかるよう、ニュアンスの違い等、分かりやすく伝えていく必要があると思います。

事務局

「自律」という言葉を使ったのは、自分で自分をコントロールする、他者の指示なく自分で決めたルールや基準に従って行動するという意味を持たせるためです。「自立」の方は経済的な独り立ちの意味になってしまうので、自分で学習計画を立て、集中して学ぶことができるように「自律的に学び続ける力」という表現をしております。取り組み内容の所の「主体的に行動する力」の部分と、文言を揃えます。

委員

全体を通して、今回のビジョンの大幅な変更はなく、一度立ち止まって新しいビジョンを策定して前に進んでいこうという認識です。新しいビジョンでは、継続する事業と新たに始める事業を整理し、これまでと何が違うのかを担当課が明確に認識し、説明することが大事です。またそれぞれのページにおいて「現状と課題」「今後の方向性」「取組内容」の分量が違うので、それぞれ揃えてあるといいなと思います。

また教育大綱の新たな視点として挙がっているウェルビーイングの視点が、教育ビジョンでも入っているのかを中心に見させていただきました。生涯にわたって自律的に学習を進める、子どもだけに限らず大人もまた、学校教育に関わることで喜びや自分の生きがいを感じたり、自分の居場所を再確認したり、よりよいまちを作りたいと思ったりする。そのために自分は何ができるか、学校教育を中心に置いて皆が幸せになる道しるべが教育ビジョンだとすると、「自律」もすごく大きなキーワードの一つなのかなと思いました。

もう一つ、評価指標の「海外で英語を学習している児童生徒」を「海外の児童生徒」に変えていいと思います。

委員長

小学校で英語の活動も多くなり、実績として何か変化はありますか。

事務局

リスニング能力やスピーキング能力が確実に上がっています。

～7 特別支援教育の推進について～

委員長

ビジョンの文言に直接関係することではないのですが、松阪あゆみ特別支援学校ができたことにより、特別支援教育が推進するようになったこと等を教えていただきたいです。

事務局

特別支援教育の担当者が別の会議に出席しているため、代わりに答えさせていただきます。あゆみとそだちの丘が隣接していることが非常に大きく、松阪あゆみ特別支援

学校があることで行政と学校の連携が取りやすくなりました。相談件数が増えていることもあり、支援が必要な子どもに対して、より支援ができるようになってきました。

委員

障がいの特性に応じて ICT の活用があってもいいと思います。巡回相談は教員だけではなく、保護者との連携が大事だと思います。

～12 環境教育の推進について～

委員

今後の方向性では「学習活動や地域での体験活動に主体的に参加して」と「主体的」という文言が使われ、取組内容の所でも「さまざまな環境課題に対し主体的に考え」と「主体的」という文言が使われています。一方で同じ取組内容の所で「自主的な活動を…」の部分は「自主的」の文言が使われています。「自主的」「主体的」という言葉をそれぞれ用いている所が気になります。

委員

「自主的」は決まっていることをすることで、「主体的」は何も決まっていないことをやることという風に使い分けしています。言葉の使い分けが難しいなと思います。

海の環境問題で、主体的に地元の人が行動したり、子どもたちが活動したりするのは、環境教育で行われているのでしょうか。

委員

鳥羽の方では、拾ったごみで作品を作るコンテストとか、海を綺麗にすることを目的に漁に出るときもあります。鳥羽市は「海が命」なところがあり、小学校の時から環境教育がよく行われていました。

委員

その取組内容は、環境教育であり、SDGs で自らの故郷を守るということにも繋がりますね。

最初は「自主的」にみんな環境教育を学習し、慣れてきたら子どもたち各々が創意工夫を凝らし最終的に「主体的」にしていくことが大事だと思います。

さきほどの鳥羽市の話からすると、取組内容の一つ目の「それぞれの地域の特性を生かした環境教育」と記載されていますが、松阪市はどんなことができるか考えさせられます。街中や川が近く在所など、いろいろな場所がありますので。

話は変わりますが、以前言わせていただいた通り二次元コードに何を載せるのかがすごく大事だと思います。広い視点で三重県がどのようなことをしているのか知るために、三重県教育委員会の環境教育の取組を二次元コードで載せているのはいいなと思います。逆に松阪市独自の取組はどんなのがあるのか二次元コードで載せてみるのもいい

なと思います。

～16 体力の向上について～

委員

現状と課題の所の 2 段落目で「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果の分析において、松阪市の子どもたちは、全国と比べて小学校・中学校共に下回る状況にありますという記載があります。これは体力・運動能力・習慣の全てが下回っているのでしょうか。

小学校ではスポーツ少年団に入っている子どもと入っていない子どもで、運動をする子どもとほとんどしない子どもに二極化しているのが大きな問題になっています。学校で体力向上のために何ができるか職員と日頃から話をしていて、休み時間に外で先生と一緒に子どもたちを遊ばせるといったことをしています。

取組内容の 2 つ目に体力テストが出てきてその後、評価指標に再度、体力テストが付され注釈マークがあります。取組内容の体力テストの方が先に出てくるので、ここに注釈マークを付した方がよいと思います。

事務局

体力・運動能力・習慣の中で体力が下回っています。具体的には、すべての学校の小学校 5 年生、中学校 2 年生が全国体力・運動能力、運動習慣等調査を行っていますが、男女ともに体力はすべての項目において全国と比べて下回っています。習慣等の調査につきましては、いろんな項目があり、全国と比べた時に上回る項目もあれば、下回る項目もあります。習慣等の調査につきましては、松阪市においては小学校が全国県よりもやや低く、中学校は全国県よりもやや高い傾向にあります。

体力テストの注釈につきましては、言っていただいた通り注釈をつけようと思います。

委員長

中学校 2 年生の運動習慣等の調査は全国県よりもやや高い傾向にあったのですが、松阪市の部活動加入率の高さがその習慣等の調査の高さに繋がっているのでしょうか。

事務局

以前に比べると地域スポーツも広がっていますので、部活動に入らない子どもも増え部活動加入率は減少していますが、他市と比べると部活動に力を入れているので部活動加入率は高いです。他市と比べた際に、部活動加入率の高さが運動習慣等調査の高さに、繋がっていると考えられます。

委員

20 年程前から松阪市の小学生の体力が低下しているという話がありました。昔と同様に全国平均と比べると体力は低いですか。

事務局

全国平均と比べると、体力の面で松阪は低いです。20 年程前と比べると、子どもの体力は上がったり下がったりしていると思いますが、コロナ前後で比べると、コロナ禍後に体力が低下しています。コロナ禍の生活習慣の変化等が原因だと考えられます。

委員

松阪の特徴の松阪マラソンを通して、フルマラソンを走れとは言いませんが、応援等を通して松阪の特徴を生かした体力向上を行えばいいなと思います。

委員

小学生の時点で体力が落ちた原因はなぜか、考えさせられます。以前学力が落ちた際には勉強に力を入れ、だいが学力が上がってきたという話を耳にしました。何をしても体力はなくてははいけません。体力がつくような取組をしていかなければいけません。

～20 教職員が働きやすい環境づくりについて～

委員

家庭・地域・保護者の理解があると働きやすいので、取組内容の所などで、そのような文言を増やしていただきたいです。

委員長

教員が大変だとアピールしすぎると、採用試験の競争率が低くなる懸念もありますね。高校の授業数と比べると小中学校の授業数はとても多く、教材研究をする時間があるのかと考えさせられる部分があります。授業時間数を減らすというのも考えられますが、教員 1 人あたりの児童生徒の定数を減らすことで、教員の負担の軽減にも繋がるように感じます。

委員

学校・家庭・地域が連携なくして何もなしえない中で、教材研究や自己研鑽、研修に生徒指導、保護者対応等、子どもたちの教育のために教員の皆様には力を尽くしていただいています。卒業生、保護者としては本当に感謝の気持ちでいっぱいです。子どもたちのために教員が日々頑張っていることが、この紙からだけでは伝わりにくい部分もあると思うので、少しでも理解できるようなキーワードを入れていただきたいです。

委員長

夏休みの学校閉校日は何日間ありますか。

事務局

今年度におきましては、8月12日から15日のお盆のあたり4日間を学校閉校日としております。

委員

せっかく園長の方がいらっしゃるのですが、教育と保育の違いはありますが、子どもに関する職として、幼稚園・保育園でも教職員の働き方に関する問題はあるのか伺いたいです。ないとすれば、小中学校の教職員の働き方改革に繋がると思います。

委員

こども園と保育園はシフト制なので、残業や時間外等も少ないと思います。幼稚園の方は小中学校と同じで、8:30から17:15までで、正規職員も少なく校務分掌も複数あり、遅くなってしまうこともあります。

保護者対応は、以前よりも時間がかかっていると思います。家庭訪問や預かり保育もあるので、遅くなることもあります。ただ小中学校と比べると、朝や帰りの際に保護者の方とお会いして話をする機会があるので、信頼関係が築きやすいという利点はあります。

～21 教職員研修の充実について～

委員

現状と課題の第2段落の「さまざまな課題への対応については」という文言はなくても文章として問題ないと思いました。20 教職員が働きやすい環境づくりと 21 教職員研修の充実の現状と課題は内容がよく似ていますが、21 教職員研修の充実の現状と課題の方が、言い方が柔らかくていいなと思いました。

評価指標の「オンライン等、多様な研修機会の提供」というのは何のことを指していますか。

「教職員研修講座の受講者の満足度」を99.6%の現状値を100%の目標値までもっていきたいということは分かりますが、難しい部分もあると思います。

事務局

評価指標の「オンライン等、多様な研修機会の提供」とは一番簡単なところで夏の研修講座のことを思い浮かべていただいて、集合して研修会を開催するものもあれば、オンライン配信のものもあり、オンデマンドで好きな時間や場所で研修を行えるというものもあり、そういった様々な形態での研修機会を提供していくということです。

「教職員研修講座の受講者の満足度」についてですが、あくまで現状値の99.6%から100%を目指さなければいけないということで、目標値を100%に設定しました。

～22 学校施設の充実について～

委員

評価指標の成果の部分で、「防災機能強化を実施した学校施設数の目標値に対する割合」という言葉の意味を教えてください。

事務局

「学校施設における防災機能強化を実施する箇所数」の目標値を令和10年に116箇所を設定するというので、現状として55箇所対応済みということ。成果の方では「目標値に対する割合」ということで、目標値116箇所に対する現状値の55箇所は割り算して、割合として47.4%が出ているという状況です。確かに分かりにくい書き方だと思うので、検討させていただきます。

委員

学校施設の充実ということで、バリアフリーや耐震といった安全安心のハード面のところがすごくしっかり書かれていると思います。基本方針には「地域とともに子どもたちの学びと育ちを支える教育環境の整備をめざします」ということで、安全安心以外にも、創意工夫等、豊かな学びの面で他にもさまざま考えられます。三重県や他の市町の方でどのような書き方がされているか調べると、まずは松阪市同様に安全安心で、後は快適な空間や自然環境を考慮したといった記載があります。そのような記載があってもいいのではないかという意見です。

もう一つ今回の教育ビジョンでは再編活性化もキーワードの一つだと思います。学校規模適正化等に関する基本方針に基づきという文言が消えましたが、消していいものか疑問にも思います。

事務局

快適な空間づくりというのは目指すべきところであると思います。三重県の教育ビジョンも確認しましたが、同様にまずは安全安心面の確保として、老朽化した施設をいかに対応していくのか、その費用でいっぱいな状況の中で、プラスして快適な空間というところまでの費用は非常に厳しいところがあります。

なお、再編活性化の部分は今回別のシートにわけましたので、違うシートで出てきます。次回8月の会議にて話が上がってきます。

(2) 本日の検討内容

子どもが健やかに育ち、自分らしく学べる教育環境の実現に向けて
(事務局から説明)

～①幼児教育の推進について～

委員

教科ではないので、数値化して指標を出しづらいです。遊びの中で数多くを学んでいるということを、周りに伝えていくことが難しく課題であるという風に思います。

架け橋期という言葉が最近よく聞きますが、5歳児と小学1年生の2年間がすごく大事で、小学校の先生に幼稚園に来ていただくことも大事だと思います。国や他の市町の方で架け橋期カリキュラムというのが取り組まれているところが多いので、松阪市も教育委員会やこども未来課が主体となって、何年かかけて架け橋期カリキュラムを作成していけると思います。

委員長

架け橋期カリキュラムの研究指定校はありますか。

委員

今年は、松江小学校と松江幼稚園が今年の研究指定校となっています。カリキュラムまではないのですが、交流はしている状態です。

～①幼児教育の推進について・②子育て支援の推進について～

委員

朝見小学校では9つの保育園・幼稚園・こども園から子どもが入学してきます。公立の幼稚園の子どもの数が減っており、私立の保育園の子どもが多いです。その子どもたちだけではなく、先生たちの交流はどのような感じが教えていただきたいです。公立と私立の先生同士の情報交換や研修会等があるのか教えていただきたいです。公立私立問わず、架け橋期カリキュラムができれば松阪市として大きな話題になると思います。

事務局

今は架け橋期カリキュラムの研究指定校として、松江小学校と松江幼稚園が取り組んでいます。この中に私立のみどり保育園がかかわっていただいております。現状は公立の間で交流を行っていて、私立を含めた交流は行っていません。今後いろんな園の園児数が変化する状態で、おっしゃっていただいた通り、公立私立の交流は必要になってくると思うので、検討していきたいと思います。

委員

架け橋期のカリキュラムが作成できれば、公立私立問わず共有されるということですか。

事務局

はい、その通りです。

委員

大人同士の関わりが昔と比べると弱く、地域コミュニティで大人が孤立してしまう中で、行政や学校・園だけでなく、何ができるのかなと考えました。朝見小学校では、住民自治協議会の青少年育成部会で、「ひよこ教室」や、「こんにちは赤ちゃん」のような取り組みをされていてすごくいいなと思いました。地域の中で、同年代のお子さんがある大人同士が集える場所があるというのは素敵だなと思いました。今回の教育ビジョンでも、学校・園・地域・家庭が連携する視点でいくと、そういった取り組みが充実していくといいなと思います。

委員

未就園児教室で来る保護者の方たちが、居場所を求めていろんなところに行っているという話を耳にします。一方で、市ではさまざまな機会の場を提供していますが、初めて園を利用した方の中には、今まで一度もそのような集まりに参加したことがない方もいらっしゃるので、何かそういう場に行きたくても行けない人たちが、それぞれの地域で小さな集いの場などを作っていただけるといいなと思います。

委員

学校支援ボランティアや地域の方と関わってといった記載がありますが、小学校中学校の学校支援ボランティアはこども園と関わらず、コミュニティ・スクールに属していないとこども園とは関われないのですか。

事務局

これまでの活動の中で小中学校の学校支援ボランティアがこども園に行って活動をした事例の報告は受けていません。しかし、こども園の子どもたちが、小学校の見学・体験をしたり、小学生がこども園に行って活動したりする時は、小学校の学校支援ボランティアの方々にご活躍いただいています。

委員

松阪市全体で学校支援ボランティアの文言を使うというのが難しいのであれば、松阪市全体で目指していくものとわけて記載する必要があると思います。

～◎郷土教育の推進について～

委員

以前委員が、福井文右衛門の話をしていて、隣の地域の偉人をすでに掘り起こされていることに驚きました。各地域に偉人と呼ばれる人はたくさんいて、偉人だけでなく城跡などを、大人も調べるのが大事です。各地域の偉人などを掘り起こし学習に活用するのは学校次第です。それを指導するのが教育委員会で、文化課等とも協力して、郷土教育を推進して地域に誇りが持てるようにしてほしいです。

委員

これまでの取組と課題の取組の2つ目に「コミュニティ・スクールに携わる方」という記載がありますが、コミュニティ・スクールは学校なので、携わる方は保護者やその他大勢を指すのでわかりにくいです。ここは「地域学校協働活動」の文言の方が伝わりやすいと思いました。

～㊸読書活動の推進について～

委員

小学生が生活の授業で本を借りに来る時は、目を輝かせているのがとても印象的です。タブレットで電子書籍を見ることができ、調べる学習においてデータをとって使えるものや、いろいろな小説などもありますので、松阪図書館でもアピールしているところです。また、学校の方にも司書を配置しているので、今の情報を共有しながら、図書館にできる事は何かを試行錯誤しているところです。

委員長

松阪図書館の方から学校司書として、各学校に司書を置いているということですか。

委員

はい、そうです。

委員

小学校の低学年は読書の時間というのがあって、必ず本を読まなければいけない時間があります。小学校で読書の時間の回数は昔に比べて減ってきていますが、不読率は小学校中学校に比べて高等学校の方が問題になっていると思います。

休み時間に図書室に行く子どもの人数も数えるほどで、朝見小学校の低学年は週1回本を借りに行きますが、進んで本を借りに行くことをする子どもというのはほとんどいないと思います。本を読むことの楽しさを味わえるようにすることが、今後の大きな課題になってきます。

市立図書館に行くのは、お家の方が本に興味がある場合か、子どもが連れて行ってほしいという場合のどちらかになると思います。学校でできることは、子どもたちを図書館に連れて行ってほしいと言えるような子どもに育てることです。資料にもあるように読書チャレンジや読み聞かせといった取組を行っていますが、お家の方も本に興味を持って家でも子どもが本を読めるよう、家庭との連携がすごく大事だと思います。

今年の試みとしてファミリー読書ウィークという、お家の人と一緒に読書を楽しめる機会を作り、感想をお家の方と子どもに書いていただきました。強制ではないですが、すごく皆さん一生懸命取り組んでいただきました。お家の方の感想には「小さい頃は読み聞かせを毎日して寝ていましたが、子どもが本を読めるようになり、逆に私が絵本の

読み聞かせをしてもらって、子どもの成長を感じられ嬉しかったです」といった声をいただきました。読書自体でなく、子どもの成長を喜ぶというまた別の効果もありました。小学校としてはこういった機会を増やすことができ、市全体でできることは、図書館でのイベントであったり、学校まで来てもらったりする司書さんを増やすことだと思います。

人との出会いと本との出会いは密接で、ボランティアさんや司書さんに助けていただきながら、子どもも大人も本を通していい関係を築いていってほしいです。

委員長

高校は朝読をほとんどしていません。相可高校に勤めていた時に、朝読を始めました。「読書は強制的にやらせるものじゃない」という先生方もいました。校長先生が変わることで朝読がなくなることもありますが、朝読は続けていってほしいです。

委員

読書支援ボランティアに参加させていただいたときに、好きな本の話から作者の話に移り、その作者が作った本の話になり、一つの話から何十冊もの本が集まり、図書室は探究活動の宝庫だと思いました。普段関わっていない大人が関わることで子どもたちの好奇心の目が光り、本を読むのが苦手な子ですら司書さんがいることで、読んでみたいと思えるように変わっていきました。司書さんを間に、地域が関わっていくことで子どもたちが本に興味をもてるということを学びました。図書館のボランティアというと、環境整備や、本カバーを直すということに注目されがちですが、私たちは学校運営協議会として、図書館を情報発信の場や自己肯定感を上げる場にしたいという思いがあります。地域学校協働活動が図書館で行われるとさらに良いと思います。

委員長

様々な立場からのお話をありがとうございます。委員の皆様、本日はありがとうございました。

(以上で終了した。17:20 終了)